

26 Jul, 2007



第32号

日米エアフォース友好協会

だ よ り

Japan America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋 5-25-1-3

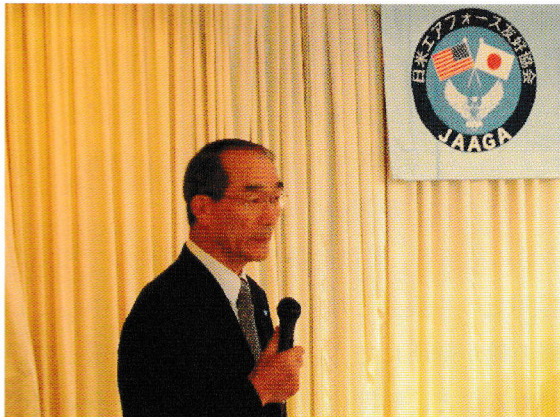
編集：JAAGA事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：http://www.jaaga.jp/

平成19年度JAAGA年次総会

－ 5月9日(水)、グランド・ヒル市ヶ谷で開催－



Opening speech, President Takegouchi

【総会】 総会は15:00から16:20の間、正会員60名が参加して行われた。冒頭、故岩崎克彦会員の冥福を祈り黙祷がなされた。

竹河内会長が総会参加への謝辞を述べた後、「JAAGAは昨年10周年を迎え、一つの大きな節目を終えた。この10年間、会の目的のとおり、航空自衛隊と米空軍との相互理解・友好を深めるための活動を行ってきた。このことが次第に皆さんに承知、理解され、特に、米空軍サイドではJAAGAに対する理解は大変深まってきていると思っている。在日米軍司令官等をやられた方が各所に行ってJAAGAの活動について話されていたり、訪米団が米国に行ったときにはJAAGAの名誉会員が大歓迎してくれたり、また、在日米軍研修のときに司令官自らが出てきて色んなことをやってくれたりということで、JAAGAの活動が充実したものになってきた。米空軍は日本との接点が多くあるわけでもなく、気心の知れた

JAAGAが仲立ちとなって接点を作ることを彼らが安心して受け入れてくれているということがJAAGAに対する評価につながっている。本日は、そういったJAAGAの活動についてよくご審議いただくよう宜しくお願いしたい。」と挨拶を行った。

「本総会は出席者・委任状提出者の合計が222名で正会員の3分の1以上であり、総会成立に必要な条件を満たしています。」と司会から報告があり、第1号から第4号までの議案審議が開始された。平成18年度事業報告、同決算報告及び同監査報告並びに平成19年度事業計画及び同予算に関する各々の議案について担当理事から説明があり、いずれも提案通り承認された。

途中、会員から「会員が参画意識をもっと持てる活動を計画・検討すべきである。」「ホストネーションとしてのサポートをJAAGAの活動として更に充実させるべきである。」旨の発言があり、会長からは、「現状としても努力しているが、JAAGAの更なる発展に向け努力していきたい。」旨の回答があった。

第5号議案として、会則の一部改正が審議された。JAAGA発足10年を経過し、この間における種々の状況の変化や事業実施の教訓から、会則の一部に活動の実態にそぐわない面が出てきたため、改正するものであり、審議の結果、提案どおり承認された。

第6号議案として、役員を選任が行われ、会長に竹河内捷次、副会長に山口利勝、大串康夫、中司崇、監事に平田伸成、川田哲雄、そして理事に清水正睦、

越智通隆、尾崎利夫の各氏が選任された。また、理事長、副理事長及び常務理事並びに三沢・沖縄の各支部長が会長から委嘱された。新顧問の委嘱も同時に行われた。

最後に、新役員の紹介があり、今後の健闘を期待する拍手があった。また、退任役員の紹介があり、拍手をもってその功績が讃えられた。スムーズな司会進行もあり、予定より早く総会は終了した。



Audience of lecture

【講演会】 講演会は16:30過ぎから、約1時間、正会員、賛助会員（個人、法人）及び招待者の計約190名が参加して行われた。講師は 第5空軍司令官 ブルース A. ライト中将であり、『空自と米空軍の相互運用性の強化』と題し、熱意溢れる講演が行われた。講演の内容は、12頁のとおり。

講演後の質疑応答では、秘密保全、インターオペラビリティ等に関する質問に対し、ユーモアを交えながら丁寧な回答が講師から行われた。終わりに竹河内会長から講師に対して謝辞が述べられ、記念品が贈呈された。

【懇親会】 懇親会は18:00から約2時間、約220名が参加して行われた。中谷元・衆院議員、守屋武昌 防衛省事務次官、田母神俊雄 航空幕僚長、防衛省付属各機関、航空幕僚監部、航空自衛隊各部隊の代表等、ライト在日米軍司令官ご夫妻等、古澤忠彦 JANAF（日米ネービ友好協会）副会長ならびに杉山蕃 新生つばさ会会長等、約90名の招待者と米軍関係者の来賓を仰ぎ、更に今回は、太平洋空軍司令官ヘスター大将、そして、在日米空軍及び航空

自衛隊の前任下士官を迎え盛大な懇親会となった。

主催者である竹河内会長は「JAAGAは昨年創立10周年を迎え、10年間にわたって友好親善を深めるために数々の活動を行ってきた。JAAGAの活動は手作りであり、現場に根ざした活動をしてきて、広く理解され支援されるようになってきた。AFAが『Forces Behind Forces（軍を支える別の軍）』であるとの精神を持っているが、JAAGAも同様の精神で航空自衛隊と米空軍との友好親善が図れるように力強く活動してまいりたい。今後ともご支援・ご協力を宜しく願いたい。」と開会の挨拶を行った。

続いて、来賓を代表して守屋武昌防衛省事務次官、田母神俊雄航空幕僚長、ライト第5空軍司令官から、ユーモアに溢れ総会を祝うに相応しい祝辞をそれぞれ戴いた。杉山蕃新生つばさ会会長の力強い音頭で乾杯が行われ、懇親の会が始まった。

多数の招待者、賛助会員を含め、華やかで和気藹々の雰囲気での懇親会となり、米軍関係者を中心とした歓談の輪が随所にでき、また、先輩と後輩との旧交を温めるなど、時間の流れを忘れてしまうほどの盛り上がりを見せた。途中、中谷議員とヘスター大将からも祝辞もあり、盛りだくさんの内容となったが、大串副会長の万歳三唱で締め括りがされ、蛍の光の曲が流れる中、余韻を残しながら懇親会は終了となった。

こうして平成19年度年次総会・講演会・懇親会は、成功裏にその幕を閉じた。（源常務理事記）



Distinguished guests at reception

第1号議案

平成18年度事業報告

(自平成18年4月1日～至平成19年3月31日)

第1 事業実績の概要及び会勢の現状

主要事業は、概ね計画どおり実施できたほか、JAAGA10周年記念行事を成功裏に実施し、JAAGA活動の更なる定着化が図れた。

平成18年度末の会員数は、357（正会員252名、個人賛助会員48名、法人賛助会員50法人及び名誉会員7名）であり、18年度当初会員数377から正会員23名の減、個人賛助会員2名、法人賛助会員2法人の増となった。

第2 事業等の実施状況

1 日米隊員の激励等

(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等

18. 5.30 北空主体（第3航空団、警戒航空隊参加）のコープ・ノース・ゲーム（18. 5.26～ 6. 20）に参加する隊員を小澤三沢支部長から菊川北空司令官に激励金を託して激励した。

18. 7.21 中空主体（第6航空団、警戒航空隊参加）のコープ・サンダー（18. 7.21～ 8.5）に参加する隊員を彌田総隊防衛部長に激励金を託して激励した。（廣瀬、石黒理事）
コープ・エンジェルへの激励は19年度に延期のため未実施

(2) 米空軍軍人の激励等

該当事項が無かったため、未実施

(3) 日米隊員の表彰

19. 2. 2 三沢基地米空軍年度優秀隊員表彰式の間において、米空軍第35航空機整備中隊長ラム中佐並びに3空団監理部斧澤雅雄空曹長を優秀隊員として表彰した。

JAAGA参加者：竹河内会長、小澤三沢支部長、山本三沢支部事務局長

19. 2. 3 嘉手納基地米空軍年度優秀隊員表彰式の

場において、米空軍第18兵站即応中隊スコット軍曹並びに5高群整備補給隊相原弘介1曹を優秀隊員として表彰した。

JAAGA参加者：中司副会長、名富沖繩支部事務局長、木村沖繩支部会員

19. 2.17 横田基地米空軍年度優秀隊員表彰式の間において、米空軍第374輸送航空団ウオルフ軍曹並びに防空指揮群田中一夫1曹及び入間気象隊田中達男空曹長を優秀隊員として表彰した。

JAAGA参加者：大串副会長、山本理事、阪東理事

2 日米隊員の交流等支援

(1) 日米共同の行事等に対する支援

18. 5.13、14 関東スペシャルオリンピックの開会式に大串副会長が参加し支援した。

18. 6.24 カデナススペシャルオリンピックの開会式に石津沖繩支部長が参加し支援した。

18. 9. 2 ミサワスペシャルオリンピックの開会式に小澤三沢支部長が参加し支援した。

(2) 米空軍、空自間の各種交換・交流活動等支援

日米相互部隊研修に参加する日米隊員の支援
ア 空自受入部隊への支援

18.11. 2 空幕人教部長（教育課長陪席）に支援金を手渡した。（永岩、石黒理事）

百里基地（12.5～12.14）築城基地（12.5～12.13）入間基地（3.12～3.23）

イ 米軍受入部隊への支援

18.11.14 ライト5空軍司令官（ロイ先任下士官陪席）に支援金を手渡した。（廣瀬、榎理事）

横田基地（12.4～12.13）、三沢基地（19.1.22～1.30）、嘉手納基地につい

ては、中止となった。

3 米空軍軍人の日本研修等支援

(1) 米空軍軍人の日本文化研修支援

18. 5.16、17 第5空軍装備部長以下6名参加の賛助会員招待の日光等史跡研修を支援した。(山本理事、宇都宮理事支援)

(2) 米空軍軍人の地域行事参加支援

18. 8. 2 三沢基地米空軍軍人及び家族のねぶた祭り参加を三沢支部において支援した。

4 JAAGAと航空自衛隊・米空軍との交流

(1) SPORTEX'06

ア SPORTEX'06-A

18. 6. 2 多摩ヒルズにおいて米空軍軍人及び会員83名(米軍:31【1】、会員:52【5】)の参加を得て実施した。

※:【 】内はボランティア参加

イ SPORTEX'06-B

18.11. 3 多摩ヒルズにおいて空自隊員、米空軍軍人及び会員110名(空自:39、米軍:37【4】、会員:34【3】)の参加を得て実施した。※:【 】内はボランティア参加

(2) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

18. 7.13 第374支援群司令の指揮権交代式(ストーリー大佐→リー・O・ワイアット大佐)に石川会員、山岡会員、越智理事及び榎、阪東理事夫妻が参加した。

19. 1.17 35Wg司令官の指揮権交替式(アンジェレラ准将→オショーンネシ大佐)に小澤三沢支部長が参加した。

(3) 米空軍協会(AFA)総会への参加

18. 9.25 米空軍協会(AFA)総会開会式に竹河内会長、山口副会長、清水理事、越智理事、岡本会員の5名が参加した。総会に先立ち18.9.23マイヤーズ前米統参議長をはじめ6名の名誉会員との懇親会を開催し、交流を深めた。

(4) 在日米空軍各基地との連携の強化

18. 5.16 730航空機動中隊の第2輸送航空隊研修を支援した。

18. 5.22 ライト5空軍司令官を竹河内会長、遠竹理事長が表敬訪問した。

18. 8.19 横田基地日米友好祭(19、20の両日)に越智、阪東、源の各理事が参加した。

18. 9. 9 米軍創設59周年記念エアフォースボールに山岡会員及び越智、阪東、源の各理事が参加した。

18.12. 2 374Wg司令官主催のオープンハウスに山岡会員及び越智、高橋、阪東(夫妻)の各理事が参加した。

18.12. 9 ライト5空軍司令官主催のオープンハウスに竹河内会長及び阪東、永岩、山本、松井、源(各夫妻)の各理事が参加した。

18.12.17 18Wg司令官主催のオープンハウスに石津沖縄支部長が参加した。

18.12.21 35Wg司令官主催のオープンハウスに小澤三沢支部長が参加した。

19. 1.21 横田基地と横田基地友好4団体の合同賀詞交換会に竹河内会長以下理事3名、会員2名が参加した。

(5) 米空軍慶弔への対応

国内51名、国外11名合計62名に対し、グリーティングカードを送付した。

5 広報及び広報協力

(1) 日米要人等の講演

ア 空幕部長等の講演

18. 4.27 (総会実施時)

講師:下平空幕運用支援・情報部長

演題:中国の航空戦力(主として中国海軍の航空部隊)

聴衆:正会員及び賛助会員約100名

イ 米要人等の講演

18. 7.11 (JAAGA10周年記念行事時)

講師:マイヤーズ前統合参謀本部議長

演題:暴力的過激主義の脅威—WWX

聴衆：会員及び空自隊員、米空軍軍人等約250名

(2) 米軍基地等の研修

実施事項：賛助会員の米軍基地等における装備品、施設等の研修及び懇談・激励等

研修先基地及び時期：

①米軍横田基地：18.10.11研修団長市川氏（MH I）以下法人会員20名、個人会員6名（計26名）の研修を榎理事以下5名で支援した。

②那覇基地及び米軍嘉手納基地：19. 3. 1～ 3. 2の間研修団長前川氏（富士通）以下法人会員16名、個人会員13名（計29名）の研修を廣瀬理事以下5名で支援した。

(3) 日米安保等に関する広報活動

ア 講演会等への講師派遣等

要望が無かったため、未実施

イ 米空軍に対する広報支援

米空軍（横田基地広報部）の要請が無かったため、未実施

ウ 大学生等の米軍基地研修支援

19. 2.22 獨協大学生等31名（教官2名、学生29名）の横田基地研修を遠竹理事長及び榎、阪東、双石理事が支援した。

(4) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布

7.28（金）第29号、11.27（月）第30号、3.29（木）第31号を発行した。

(5) JAAGAパンフレットの更新

19年3月に更新した。

(6) 一般広報

① 関係広報誌等への投稿、情報の提供等を実施した。

② インターネット・ホームページを運営した。

6 総会及び懇親会

18. 4.27 グランドヒル市ヶ谷において、会員63名（委任状167名）の参加を得て総会を実施し、17年度事業報告、収支決算報告及び18年度事業計画、予算、役員を選任等が承認された。引き続き、懇親会を約130名

の参加を得て実施した。

7 10周年記念行事

18. 7.11 グランドヒル市ヶ谷において次のとおり実施した。

講演会：5-(1)-イのとおり

感謝状贈呈：個人4名、法人3社に贈呈した。

祝賀会：約300名（招待者120名を含む）が参加した。

企業展示：19社が展示し、空幕等から多数の見学者が参加した。

記念品の作成その他：参加者に対する記念品、会員用のネーム・プレート、ピンバッジ、JAAGAの横断幕を作成・配布した。

8 運営管理

(1) 会勢の拡大等

ア 支部の活性化等の検討

支部の活性化、会費の設定等について検討中。

イ 会員の拡大

実施事項：協会のPR（面談、卓話、パンフレット配布等）及び入会案内

実施要領：① 会勢拡大のため、積極的に入会勧誘を実施

② 空自退官予定隊員に対しては退官時期に合わせて案内状を送付

③ 業務管理講習時等におけるPRの強化

(2) 会員名簿の作成・配布

7.28（金）本冊発行、11.27（月）、3.29（木）修正表を発行した。

(3) 理事会及び常務理事会

ア 理事会

6.29（木）、10.5（木）、12.14（木）、3.29（木）

イ 常務理事会

4.24（月）、5.29（月）、7.28（金）、10.30（月）、11.22（水）、1.22（月）、2.28（水）

(4) 監査

18. 4.18 17年度分の監査を実施した。

19. 4.16 18年度分の監査を実施した。

平成18年度収支決算報告書

(平成18. 4. 1 ~ 19. 3. 31)

(単位: 円)

収 入			支 出			
区 分	予 算 額	執 行 額	予 算 科 目	予 算 額	執 行 額	
前 年 度 繰 越	9,425,019	9,425,019	事 業 費	共同訓練激励費	200,000	200,294
年 会 費	4,095,000	3,952,360		激 励 慰 問 費	100,000	0
利 息	100	737		表 彰 関 係 費	300,000	202,227
寄 付 金	-	-		友 好 親 善 行 事 費	1,275,000	1,183,747
雑 収 入	-	-		広 報 費	1,590,000	1,408,537
				総 会 費	500,000	152,400
				10周年記念関連費	810,000	696,790
				※10周年記念行事費	4,250,000	4,025,641
				小 計	9,025,000	7,869,636
			運 営 費	入 会 活 動 費	70,000	41,309
				名 簿 関 係 費	120,000	133,560
				理 事 会 運 営 費	210,000	205,010
				支 部 運 営 費	90,000	100,540
				事 務 通 信 費	210,000	128,179
				小 計	700,000	608,598
				予 備 費	200,000	0
				支 出 計	9,925,000	8,478,234
				翌 年 度 繰 越	3,595,119	4,899,882
合 計	13,520,119	13,378,116	合 計	13,520,119	13,378,116	

※: 10周年記念行事費については付表のとおり

10周年記念行事費

(単位: 円)

区 分	細 部 項 目	予 算 額	執 行 額
全 般	会場借上費	500,000	859,605
	案内状等	100,000	69,373
講演会	講師旅費、謝礼等	1,200,000	592,955
	機材借り上げ費等	770,000	790,538
祝賀会	招待者等飲食代	780,000	869,926
	アトラクション謝礼等	100,000	90,000
感謝状	印刷代、額及び記念品	350,000	323,269
	10周年記念品	450,000	429,975
	合 計	4,250,000	4,025,641

第3号議案

平成19年度事業計画

(自平成19年4月1日～至平成20年3月31日)

第1 事業運営方針

各種事業の着実かつ積極的な推進を図るとともに、会員の増勢及び運営管理態勢の整備を推進し、JAAGAの活動基盤の強化を図る。

第2 実施事業等の概要

1 日米隊員の激励等

(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等

実施事項：日米共同訓練に参加する日米隊員の激励・慰問

対象訓練：コープ・ノース、コープ・エンジェル、コープ・サンダー等

時期：日米共同訓練実施時

(2) 米空軍軍人の激励等

実施事項：国際貢献活動等に参加した米空軍軍人（軍属を含む。「以下同じ」）の激励・慰問

訪問先：三沢、横田、嘉手納

時期：国際貢献活動等があった場合に実施

(3) 日米隊員の表彰

対象基地：三沢、横田、入間、府中、嘉手納、那覇等

表彰人員：各基地日米隊員1名基準

時期：米空軍年度表彰行事実施時等

2 日米隊員の交流等支援

米空軍、空自間の各種交換・交流活動等支援

① 日米下士官相互部隊研修に参加する日米隊員の支援

② その他要請に応じ日米交換幹部計画等米空軍空自交換・交流活動に参加する日米隊員の支援

3 米空軍軍人の日本研修等支援

(1) 米空軍軍人の日本文化研修支援

実施事項：賛助会員招待の日光等史跡研修支援

対象：米空軍軍人（夫妻等10名基準）

時期：19年10月

(2) 米空軍軍人の地域行事等支援

ア スペシャルオリンピックスの支援

時期及び基地：5月12日（土）、13日（日）（横田基地）6月24日（日）（嘉手納基地）

2／四半期（三沢基地）

イ 米空軍人及び家族のねぶた祭り参加支援

時期：平成19年8月

4 JAAGAと航空自衛隊・米空軍との交流

(1) SPORTEX'07

ア SPORTEX'07-A

場所：多摩ヒルズ

参加者：会員及び米空軍軍人 約100名

時期：平成19年6月1日（金）

イ SPORTEX'07-B

場所：多摩ヒルズ

参加者：正会員、空自隊員及び米空軍軍人 約100名

時期：平成20年3月20日（木、祝日）

(2) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

対象基地等：三沢、横田、嘉手納、都内

時期：都度

(3) 米空軍協会（AFA）総会への参加

実施事項：JAAGA名誉会員との交流

時期：19年9月

(4) 在日米空軍各基地との連携の強化

対象基地：三沢、横田、嘉手納

実施事項：①各基地との緊密な調整、広報資料の提供等

②オープンハウス等各種基地行事への参加

(5) 米空軍慶弔への対応

必要に応じて慶弔意を表すとともに、グリーティングカードを送付する。

5 広報及び広報協力

(1) 日米要人等の講演

ア 空幕部長等の講演

時期：3／四半期

講師：空幕防衛部長

対象：正会員及び賛助会員

イ 米要人等の講演

時期：平成19年5月9日（水）（JAAGA総会時）

講師：第5空軍司令官 ライト中将

対象：正会員及び賛助会員、並びに招待者

(2) 米軍基地等の研修

実施事項：会員の米軍基地等における装備品、施設等の研修及び懇談・激励等

研修先基地及び時期：

①賛助会員：米軍横田基地：2／四半期

②賛助会員：三沢基地：4／四半期

(3) 日米安保等に関する広報活動

ア 講演会等への講師派遣等

実施事項：部外者、学生等を対象とする講演会等に、会から講師を派遣又は米軍要人等の講師の派遣斡旋

実施要領：主催者側の計画（日時、場所、経費、その他）による。

イ 米空軍に対する広報支援

実施事項：米空軍が準備する広報記事を「だより」に掲載（「だより」紙面の提供）

実施要領：米空軍（横田基地広報部）との調整による。

ウ 大学生等の米軍基地研修支援

実施事項：主任教授等を通じた大学生等に対する米軍基地研修の紹介と研修支援

実施要領：研修者の希望に応じ、米空軍とその都度調整する。

(4) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布

発行回数：2回（7月、2月）

(5) 一般広報

実施事項：① 関係広報誌等への投稿、情報の提供等

② インターネット・ホームページの運営

③ パンフレットの改訂

6 総会等

(1) 日時：19年5月9日（水）

(2) 場所：グラントヒル市ヶ谷

(3) 実施事項：総会（参加者：正会員）

講演会（講師及び参加者：5（1）イのとおり）

懇親会（参加者：正会員及び賛助会員、並びに招待者）

7 運営管理

(1) 会勢の拡大等

ア 支部の活性化等の推進

支部の活性化を推進するとともに、会費の再設定等を行う。

イ 会員の拡大

目標：正会員300名、個人賛助会員50名、法人賛助会員50社

実施事項：協会のPR（面談、卓話、パンフレット配布等）及び入会案内

実施要領：① 会勢拡大のため、積極的に入会勧誘を実施

② 空自退官予定隊員に対しては退官時期に合わせて案内状を送付

③ 業務管理講習時等におけるPRの強化

(2) 事務所機能の整備

JAAGA事務所の設置、運営

(3) 会員名簿の作成・配布

発行回数：本冊1回、修正表1回

時期：本冊（7月）、修正表（2月）

(4) 役員会及び常務理事会

ア 役員会

時期：四半期毎に1回（基準）

場所：グラントヒル市ヶ谷

イ 常務理事会

時期：理事会を開催しない月毎に1回（基準、8月を除く。）

場所：グラントヒル市ヶ谷

(5) 監査

実施事項：19年度収支決算及びJAAGA事務備品の監査

時期：20年4月

第4号議案

平成19年度収支予算

(単位：円)

収 入		支 出	
区 分	予 算 額	予 算 科 目	予 算 額
前 年 度 繰 越	4,899,882	共同訓練激励費	300,000
年 会 費	4,015,000	激 励 慰 問 費	100,000
利 息	500	表 彰 関 係 費	300,000
寄 付 金	—	友 好 親 善 行 事 費	1,215,000
雑 収 入	—	広 報 費	1,170,000
		総 会 費	600,000
		小 計	3,685,000
		運 営 管 理 費	
		入 会 活 動 費	70,000
		名 簿 関 係 費	120,000
		役 員 会 運 営 費	240,000
		支 部 運 営 費	100,000
		事 務 所 運 営 費	120,000
		事 務 通 信 費	210,000
		小 計	860,000
		予 備 費	200,000
		支 出 計	4,745,000
		翌年度繰越	4,170,382
合 計	8,915,382	合 計	8,915,382

第5号議案

日米エアフォース友好協会会則の一部改正

下線部が改正部分

第1条 (目的)

本会は、航空自衛隊と米空軍との相互理解及び友好親善の増進に寄与する事業を推進し、日米両国の信頼関係の向上に貢献することを目的とする。

第2条 (名称)

本会を「日米エアフォース友好協会」(Japan-America Air Force Goodwill Association 略称「JAAGA」と称する。

第3条 (本部等の位置)

本会の本部を東京に置く。

2 三沢及び沖繩に支部を置く。

第4条 (事業)

本会は、次の事業を行う。

- (1) 航空自衛隊隊員及び米空軍軍人(以下、「日米隊員」という。)の激励等
- (2) 日米隊員の交流等支援

- (3) 米空軍軍人の日本研修等支援

- (4) 広報及び広報協力

- (5) その他、本会の目的達成のため必要な事業

第5条 (会員)

本会は、次の会員で構成する。

- (1) 正会員：航空自衛隊OBで、本会の趣旨に賛同して入会を希望し、会長が入会を承認したもの。
- (2) 賛助会員：本会の趣旨に賛同し、本会の事業に協力する個人及び法人で、役員会の審議を経て会長が承認したもの。
- (3) 名誉会員：米第5空軍司令官経験者で、会長の入会要請に応じて入会を受諾したもの。

第6条 (役員及び役員選任)

本会の役員は、原則として正会員によるものとす、その役職、員数、選任は次のとおりとする。

役 職	員 数	選 任
会 長	1 人	総会において、理事の中から選任する。
副会長	3 人	同 上
理 事	40人以内	総会において、会員の中から選任する。
監 事	2 人	同 上
理事長	1 人	理事の中から会長が委嘱する。
副理事長	1 人	同 上
常務理事	34人以内	同 上
支部長	各 1 人	会員の中から会長が委嘱する。
事務局長	各 1 人	会員の中から支部長が委嘱する。

- 2 理事及び監事は、相互に兼ねることはできない。
- 3 役員任期は、原則として2年とする。但し、再任を妨げない。
- 4 年度途中における理事の選任は、会長が暫定的にこれを行うものとし、総会において承認を受けるものとする。

第7条（役員職務）

役員職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が定めた順序に従い、その職務を代行する。
- (3) 理事は、役員会を構成し、会務の主要事項について審議する。
- (4) 理事長は、会長の命を受けて会務を掌理する。
- (5) 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるときは、その職務を代行する。
- (6) 監事は、資産、会計及び会務の執行状況を監査する。
- (7) 常務理事は、常務理事会を構成し、会務について審議するとともに、この会則の定め及び役員会の議決に基づき会務を分担処理する。
- (8) 支部長は、この会則の定め及び役員会の議決に基づきそれぞれの地域における会務を分掌する。
- (9) 事務局長は、この会則の定め及び役員会の議決に基づきそれぞれの支部の会務を分担処理する。

第8条（顧問）

本会に顧問（若干名）をおく。

- (1) 顧問は、正会員の中から会長が委嘱する。
- (2) 顧問は、会長が必要と認めた事項について、その諮問に応ずる。

- (3) 顧問を委嘱する期間は2年間とし、必要に応じ、再委嘱することができる。

第9条（会議）

会議は、総会、役員会及び常務理事会とする。

第9条の2（総会）

総会は、正会員の3分の1以上の出席（委任状を含む。）により成立し、議決は、出席者の過半数の同意による。

2 総会の議決事項は次のとおりとする。

- (1) 事業報告及び決算の承認
- (2) 事業計画及び予算の決定
- (3) 役員を選任
- (4) 会則の変更
- (5) その他、本会の運営に関する重要事項

3 総会は、会長が招集する。

4 総会の議長は、会長がこれにあたる。

第9条の3（役員会）

役員会は、役員（監事、支部長、事務局長を除く）の3分の2以上の出席（委任状を含む）により成立し、議決は、出席者の過半数の同意による。

2 役員会の議決事項は次のとおりとする。

- (1) 総会の議決を要しない事項の承認
- (2) 総会に付すべき事項の承認

3 役員会は、会長が招集する。

4 監事、支部長、事務局長は、役員会に出席して意見を述べることができる。ただし、議決権は有しない。

第9条の4（常務理事会）

常務理事会は、理事長又は副理事長及び常務理事の3分の2以上の出席（委任状を含む）により成立し、議決は、出席者の過半数の同意による。

2 常務理事会の議決事項

- (1) 総会又は役員会で議決された事項の執行に関する事項
- (2) 役員会に付すべき事項
- (3) その他、役員会の承認を要しない会務の執行に関する事項

3 常務理事会は、理事長が招集する。

第10条（会費及び会計）

本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(1) 年会費は、次のとおりとする。

正 会 員	: 5,000円
個人賛助会員	: 10,000円
法人賛助会員（非営利法人）	: 20,000円
法人賛助会員（企業法人）	: 50,000円

(2) 名誉会員の会費は納入を要しないものとする。

- 2 本会の資産は、財務担当常務理事が管理する。
- 3 本会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。
- 4 事業計画及び予算が決定されるまでの間の事業については、暫定的に会長が、これを行うことができるものとし、総会において承認を得るものとする。

第11条（退会）

会員は、本人の申し出により、退会することができる。

- 2 会員に、本会の会員としてふさわしくない行為があった場合、会長は、役員会の審議を経て、この会員を退会させることができる。
- 3 2年間連続して年会費を滞納し、督促を受けても

なおこれに応じない場合は、会員の資格を失う。

第12条（細則の制定）

この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は、役員会の審議を経て、細則として定めるものとする。

- 2 支部の運営要領については、それぞれの支部長が定めることができる。

第13条（その他）

本会は、「新生つばさ会」の附属組織として、次の事項を、新生つばさ会に報告等するものとする。

- (1) 会則の変更
- (2) 組織の重要な変更
- (3) 年度事業計画及び年度事業報告

附則：この会則は、平成19年5月9日から施行する。

第6号議案

役員 の 選 任

職 名	氏 名	
会 長	竹河内捷次	
副 会 長	山口利勝（再任）、大串康夫、中司 崇	
理 事	清水正睦（再任）、尾崎利夫（再任）、越智通隆（再任）	
監 事	平田伸成、川田哲雄	
理 事 長	遠竹郁夫	
副 理 事 長	森和彦（理事としては再任）	
常 務 理 事	企 画	廣瀬紀雄、石黒正昭（再任）、安宅耕一（再任）、奈良信行、堀 好茂（新任）
	総 務	香川清治（再任）、高島秀雄（再任）、岡本秀夫（再任）、鈴木直人（新任）
	渉 外	榎 利美（再任）、阪東政詮（再任）、松井 健（再任）、山本隆之（再任）、新井洋一（兼務新任）
	会 員	宇都宮靖（再任）、鬼塚恒久、新井洋一（再任）、正岡富士夫
	広 報	四ッ家邦紀（再任）、源外志明、双石芳則（新任）、高橋健才（新任）、原田千敏（新任）
財 務	内山好夫（再任）、北村善信（再任）、高橋健二（再任）	
支 部 名	支部長	事務局長
三 沢	小澤満昭（再任）	山本親男（再任）
沖 縄	石津 靖（再任）	名富忠夫（新任）
【退任】理事：蜂谷治幸、永岩俊道		
顧 問	白川元春、平野晃、竹田五郎、山田良市、森繁弘、大村平、米川忠吉、鈴木昭雄、長谷川孝一、石塚勲、石川吉夫、杉山蕃、横澤彰夫、村木鴻二、江藤兵部、伊藤惇、平岡裕治、吉川武秀、後藤龍一、細 稔、津曲義光、吉田 正（新規）	

☆ 原稿募集 ☆

皆様からのフリーな投稿や、J A A G Aの活動に対するご意見やご要望を頂戴し**皆様と共に歩むJ A A G A**として更なる発展を期していきたいと思っております。皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています。

投稿受付 源 外志明 Tel 042-568-7034 （株式会社IHI）
Fax 042-568-7158

空自と米空軍の相互運用性の強化

第5空軍司令官ブルース A. ライト中将
(JAAGA講演会 (2007・5・9))



Lecturer, Lt.Gen. Bruce A.Wright

皆様こんにちは。本日は皆様とお話しできる場を頂き、光栄に思います。ありがとうございます。

航空自衛隊とアメリカ空軍にはたくさんの共通点があります。エアメンとして自国民や自国領土をはじめ自由に対する価値観、民主主義、平等などを守る責任を負っています。その任務は今も変わりませんが、世界の状況も直面する潜在的脅威も大きく変わりました。それが今日の現実です。

個別に、またパートナーとして航空自衛隊も空軍も重要な岐路に立っています。今日の我々の決断と行動が間違いなく、日本と周辺地域、ひいては世界の安全と安定をもたらす将来の能力の原動力となります。今我々が下す決断と行動は、両者の能力と相互運用性を強化することに焦点を当てなければなりません。そして、我々は前途有望な歴史的な始まりに着手しました。

ご存知のように、日米両政府は安全保障同盟を変革することをお互いに約束しました。目指すのは、この安全保障のパートナーシップが、これまでと同様に50年先の将来においても効果的であり続けることです。まず共通の戦略目標を確認する作業から始めました。これを基に日本に駐留する米軍を再編成するための、そしてより重要である双方の役割、任務、能力の検討と強化のための大規模な枠組みを作成しました。

変革と再編のための主要な運用上の変更の中でも、空軍と航空自衛隊の相互運用性を強化する取り組みほど大きなものはないということを皆様にきちんとお伝えしたいと思います。これから述べる事例を考えてみてください。

先ほど、キーンエッジ共同演習を実施しましたが、日米のエアメンによってもたらされた力は見事な事例となりました。彼らは実際に顔を合わせながらリアルタイムで情報を共有し、しっかりとした共通運用図 Common Operating Picture を作成し、人道支援活動から紛争にいたる各種シナリオへの対応を調整しました。航空自衛隊と空軍の運用上の、そして技術的な通信リンクはもちろん優れたものではありますが、成功の根本的要素は人にあります。横田基地にあるBJOCCと呼ばれる暫定的な共同統合運用調整センターにおいて、またACCEと呼ばれる航空調整所において、そして市ヶ谷にある共同調整所において、生身の人間が日米間の調整と協力を一段上の効果的なレベルに押し上げたのです。このレベルにおける協調関係が、潜在的な敵の注意を喚起し、世界の危険地帯において彼らに節度を持たせています。

そして、この日米関係は指揮所や司令部だけでなく、現場においても活用されています。3月には初の訓練移転を実施しました。大変見事でした。築城基地において嘉手納基地のF-15と航空自衛隊のF-2が訓練しました。この経験はパイロットだけでなく、訓練に関わったすべてのエアメンにとって有意義なものとなりました。ロジ担当者は基地の施設と支援状況を調べ、整備関係者は飛行を確実にし、フライトライン上でお互いにさまざまなことを学び取りました。地元自治体の関係者がアメリカのエアメンと会う機会もあり、アメリカの軍人と会うのが初めての方もいらっしゃいました。すべてのレベルにおいて築かれた友情は、まさに形を変えたソフト・コンバット・パワーです。

これらの事例は、我々がこれまで行ってきた共同

訓練、たとえば航空自衛隊のイラクでの任務のためにアメリカの C-130のクルーが日本のクルーと訓練することや、コープサンダーやコープノースのような大規模な訓練、また三沢、嘉手納、横田の各基地で実施している部隊規模での訓練や交流プログラムなどの一環であるに過ぎません。

共に戦闘即応態勢を維持しながら、米空軍は運用上のプレゼンスの向上を図っています。嘉手納の第18航空団は、F-15Cを最新のモデルにアップグレードし、新しいエンジンやレーダー、Joint Helmet Mounted Cueingシステム、すなわちヘルメットによる追尾システムを装備しました。横田の第374空輸航空団では、より良いパフォーマンスを得るために輸送機をC-130EからC-130Hに変えました。また、沖縄ではF-22ラプターによる初の海外展開を成功裏に収めつつあります。

共同演習や共同訓練に加え、航空総隊司令部が府中基地から横田基地に移転した際には、日米で隣り合って仕事をする環境が整います。この、まさに変革といえるイニシアチブは、司令部と人員の移転のみならず、航空自衛隊と空軍のスタッフが弾道ミサイル防衛と日本の防空のために共に仕事をするためのBAOCC共同航空作戦調整センターの建設も含まれています。この取り組みは2010年の運用開始を目標としていますが、これにより横田基地の景観が変わるだけでなく、両空軍の相互運用性の変革と強化をもたらします。

弾道ミサイル防衛は、アメリカにとっても重要ですが、日本にとっては切実であります。去年の夏の北朝鮮によるミサイル発射事案が示したように、ミサイルの飛行時間は短いです。非常に短いです。イージスや SM-3などのミサイル防衛能力に関する日米共同の研究、開発、実験、配備などは、世界でも例のないものです。この総体的に強化された防衛運用能力と相互運用性の最終的な成果は、信頼し得る抑止力です。大多数の人が納得すると思いますが、弾道ミサイル防衛の最良の形は、発射台からミサイルが発射されないことを保証する抑止力です。

この取り組みを支援するため、太平洋空軍では今年の1月、横田基地に第13空軍の分遣隊を前方展開しました。第13空軍の第1分遣隊は24時間態勢でハワイの太平洋航空宇宙作戦センターとリンクしています。50名の分遣隊スタッフの仕事は、日本におけ

る航空作戦とその計画、調整を第613航空宇宙作戦センターと行うことです。簡潔に言いますと、米空軍のAOCが日本の防衛により完全に寄与するということです。それと同等に重要なのが、この再編において第5空軍をこれまで通り日本に置き、航空自衛隊と日々の調整を継続していることです。

米空軍に関して言いますと、老朽化してきている航空機を近代化しなくてはなりません。現在のグローバル・リーチとグローバル・パワーを維持しながら、新たな難問に対処し打破できるよう準備しておかなければなりません。新しいタンカーや研究用、レスキュー用の航空機、更には機能の充実を図った ISR（情報、監視、偵察）能力が必要です。いつでもどこでも飛行し、戦い、勝つための第5世代の戦闘機の能力が必要です。このほかに、エアメンへの投資も続けていかななくてはなりません。

日本も似たような重要な岐路にあると思います。先週の2プラス2で出された共同発表では、今日の日米による同盟への投資が明日の平和と安全を保障すると明示されています。共通戦略目標を明確に定義することができました。今回の2プラス2では朝鮮半島の非核化と、中国の軍事活動の透明性を向上させ、当地域の信頼できるパートナーとなっていくよう努力していくことなどの目標の重要性を強調しました。両政府から示された、軍事同盟と協調関係、相互運用性を強化していく方向性を実施しながら、政治的目標を達成して行きます。

相互運用性について少々述べたいと思います。軍事的意味で使用される相互運用性は、ほとんどの場合装備を指しています。もちろん装備の相互運用性はきわめて重要です。しかしながら、日米間の信頼と理解友情が時によっては最も重要であることを、これまでの日本勤務の経験から学びました。個人的な関係はコンバットパワーと同じだけの力があります。2プラス2の共同文書でも、危機的状況下で自衛隊と米軍が共に活動できるよう準備を整えていくよう示されていました。そしてJAAGAはこの手助けをして下さっています。日米間の個人的、そして仕事上の人間関係を育んできたこれまでのJAAGAの活動に感謝いたします。

皆様のご静聴とこのようにお話し申し上げる栄誉を頂き、ありがとうございました。

(本抄録は第5空軍提供)

"Strengthening of Interoperability between JASDF and USAF"

by Lt.General Bruce A.Wright
at JAAGA lecture on 9 May 2007

Good afternoon and thank you for the honor of addressing this prestigious group!

The Japan Air Self-Defense Force and the U.S. Air Force have much in common. As Airmen, we are responsible for the defense of our citizens, for our territories, and for our shared values of freedom, democracy, and equality. While that mission has remained constant, our world and the potential threats we face have changed dramatically. That is our reality today.

Individually and as partners, our air forces are at a critical crossroads. Make no mistake: the decisions we make and the actions we take today will drive our future ability to provide security and stability for Japan, for the region, and ultimately, the global community. The decisions we make and the actions we take now must be focused on strengthening both our capabilities and our interoperability.

We've made a promising and a historic beginning.

As you know, our governments have committed to transforming our security alliance. The goal is to ensure our security partnership is as effective in the future, in the next 50 years, as it has been in the past. We began by identifying the many strategic objectives we share in common. Based on this, we built an ambitious framework to realign US military forces in Japan and the region, and, much more importantly, to review and enhance our roles, missions, and capabilities.

Of all of the key operational changes under the transformation and realignment process, I would suggest to you that none are more transformational than those actions which strengthen US Air Force and Japan Air Self-Defense Force interoperability. Consider these examples:

Our recent bilateral exercise KEEN EDGE was a superb example of the power we generate from our Japanese and American Airmen working face-to-face, in real-time, sharing information and intelligence, building a robust common operating picture, and coordinating our response to scenarios ranging from humanitarian relief to conflict. While the operational and technical communication links between our air forces are impressive, the main ingredient for success remains our people. Through the interim Bilateral Joint Operations Coordination Center-or BJOCC-at Yokota, through our Air Component Coordination Element-or ACCE, and through the Bilateral Coordination Center at Ichigaya, our people drove coordination and cooperation to new levels of effectiveness. This level of cooperation gets the attention of potential adversaries and helps keep them respectful in this dangerous part of the world.

We're taking this interaction beyond our command posts and headquarters and into the field. In March, we conducted our first air training relocation. It was magnificent. F-15s from Kadena trained with JASDF F-2s at Tsuiki Air Base. And the experience was phenomenal for all of our Airmen, not just the pilots. Our logisticians surveyed base facilities and support. Our maintainers generated sorties and learned from each other on the flight line. Local Japanese government officials met American Airmen-some for the very first time. The friendships that result, and I'm talking at all levels, are simply another form of soft combat power.

All of this is really just a continuation of the great bilateral training we've always done, such as US C-130 crews helping train JASDF air crews for duty in Iraq, major exercises such as COPE THUNDER and COPE NORTH, and constant local unit-level training and exchange programs at Misawa, Kadena, and Yokota.

Even as we work together to maintain our combat readiness, the US Air Force continues to enhance our operational presence. The 18th Wing at Kadena is upgrading to the newest F-15C model and enhancing the fleet with new engines, new radars, and integration of the Joint Helmet-

Mounted Cueing System. The 374th Airlift Wing at Yokota has transitioned from the C-130E to the C-130H for higher performance. And we are nearing the end of the first-ever overseas deployment of the F-22 Raptor to Okinawa-an unqualified success by any measure.

In addition to exercising and training together we will soon have the ability and strategic opportunity to work side-by-side together as the Air Defense Command moves its headquarters from Fuchu to Yokota. This truly transformational initiative includes not only moving the headquarters and personnel, it also includes the construction of a new bilateral air operations coordination center (BAOCC) where members of the JASDF and USAF will work together to provide for the ballistic missile and air defense of Japan. This initiative with a planned initial operational capability set for 2010 will not only transform the landscape of Yokota AB, it will also transform and strengthen the interoperability of our two Air Forces.

Ballistic missile defense is important to the United States, but even more compelling for Japan. As last summer's North Korea missile launches demonstrated, missile flight times are short. Very short. Japanese and US cooperation on research, development, testing, and deployment of missile defense capabilities such as Aegis and the SM-3 missile is unprecedented in the world. The end result of this overall strengthened defensive operational capability and interoperability is credible deterrence. And most people would agree that the best form of ballistic missile defense is the deterrence that helps ensure threatening ballistic missiles are never fired from their launchers.

To aid in this effort, this January, US Pacific Air Forces established a forward deployed operating detachment of 13th Air Force at Yokota AB. Det 1 13 AF provides a permanent twenty-four/seven operational link with our Pacific Air and Space Operations Center in Hawaii. The 50-person detachment is responsible for planning, coordinating and executing air operations around Japan by working with the 613th Air and Space Operations Center. Stated more simply, the change commits a fully functional US Air Force AOC to the defense of Japan. Equally as important, the reorganization maintained 5th Air Force in Japan to continue daily coordination with our JASDF counterparts.

For the U.S. Air Force, we must replace and modernize our fleet of aging aircraft. We must maintain our existing global reach and global power, while also preparing to meet and defeat emerging challenges. We need new tankers, new search and rescue aircraft, and expanded Intelligence, Surveillance and Reconnaissance capabilities. We need the capabilities of the fifth generation fighter to ensure we can fly, fight, and win anytime and anywhere. We need to continue to invest in our Airmen.

Japan is at a similar critical crossroads. The Japan-US joint statement from last week's 2+2 meeting states clearly that the investments our nations make in the alliance today will ensure our peace and security tomorrow. We have clearly defined our common strategic objectives. The recent 2+2 highlighted the goals of denuclearizing the Korean Peninsula and engaging with China to be a responsible regional partner and to improve transparency in their military activities, among other objectives. We will achieve these political objectives by implementing the direction of our two governments to strengthen our military alliance, cooperation, and interoperability.

Let me close by talking about interoperability. In most military contexts, interoperability refers to equipment-and no doubt the interoperability of equipment is very important. My experience in Japan, however, has taught me that trust, understanding, and friendship among our Airmen is just as important-maybe even more so. Personal relationships equal real combat power. The recent 2+2 statement calls on us to better prepare our forces to operate together in a crisis. JAAGA helps us do this. I want to personally thank you for the impact JAAGA has in forging and strengthening the personal ties and working relationships between our people and our air forces.

Again, I thank you for your time and this great honor of addressing you today.

(本抄録は第5空軍提供)

'07日米共同救難訓練(コープエンジェル)を激励

5月10日(木)午後、廣瀬・石黒両常務理事が航空支援集団司令部を訪れ、日米共同救難訓練(COPE ANGEL07-1)参加者に対する激励金を航空支援集団司令官織田邦男空将に託した。

今回で24回目となる日米共同救難訓練は、5月14日から18日の間、航空自衛隊側：那覇救難隊長佐藤徳弘2等空佐、米空軍側：第31救難隊長Charles Metrolis空軍中佐、第33救難隊長Gary Henderson空軍中佐を其々訓練統制官にして、那覇基地、嘉手納基地、浮原島訓練場周辺海域及び空域において航空救難団(那覇救難隊を主体に各隊から増強)と米

空軍第31救難隊、第33救難隊が参加して実施された。

訓練初日こそ梅雨空のため地上訓練に変更されたものの、2日目以降は大量負傷者救助(洋上)訓練、夜間米軍機航空救難(平時)、地上訓練(スペース・レスキュー)が計画通り実施された。特に、今回初めて「T-DUCK」(エンジン付き救難ボートをヘリコプタから展開)やNVG(暗視ゴーグル)を使用した救難(日本側は初めて)を共同で行い練度の向上が図られた。

(石黒常務理事記)



Visit Lt.Gen.Orita for Cope Angel 2007



One scene of rescue training

'07日米共同訓練(コープ・ノース・グアム)を激励

6月8日(金)午後、廣瀬・石黒両常務理事が航空総隊司令部を訪れ、日米共同訓練(COPE NORTH GUAM)参加者に対する激励金を航空総隊司令官永田久雄空将に託した。

当該訓練には、第3航空団F-2と警戒航空隊E-2Cが参加して5月下旬から7月上旬にかけて(先遣隊の展開から撤収まで)実施される。また、席上、司令官にJAAGAの19年度事業計画をご説明し、JAAGAの活動に対するなお一層のご理解とご支援をお願いした。

(石黒常務理事記)



Visit Lt.Gen.Nagata for Cope North Guam 2007

'07関東スペシャル・オリンピックス(横田)



Supporters, Kanto Special Olympics at Yokota AB

5月12日、13日 横田基地内の中学校運動場ボンク・フィールドで関東スペシャル・オリンピックスが開催され、本会から廣瀬、阪東、榎の各常務理事が出席した。

スペシャル・オリンピックスは障害者のためのスポーツ競技及びレクリエーション・プログラムとして1968年に協会が設立され、多様なスポーツとレクリエーションを通じて、障害者一人ひとりの自信を高めてもらうことを目的としている。横田基地では1980年下士官団体が関東スペシャル・オリンピックスを設立、1984年日本で唯一、国際スペシャル・オリンピックス協会が承認する正式団体となった。今年第28回目の開催である。

12日は薫風が競技場を撫で行く絵に描いたような五月晴れ、関東一円から参集した400名以上の参加選手、選手をサポートする関係者及びボランティアが開会式に臨んだ。ボーイスカウトの保持する日米両国の国旗を先頭にスタンドに参集した見学者の手拍子に合わせて入場行進で開会式が始まった。

大会委員長のCol. Paul J. Montgomery374空輸航空団副司令が「今日は最高の天気にも恵まれました。この大会は選手の皆さんはもちろん、御家族、多くの支援者、ボランティアの力添えで開催されています。選手皆さんは精一杯の成果を発揮され記録更新を目指してください。」と挨拶され、引き続き日米の選手代表が「私達は、勝利を目指して頑張ります。たとえ勝てなくとも、勇気を出して頑張ります。」と宣誓した。

ここで突然、大会委員長から今までの諸支援及び多額の寄付に謝意を表すとして感謝状がJAAGAに授与されると発表され、廣瀬常務理事が記念メダルの埋め込まれた感謝状額を受領した。

17の参加団体代表者が保持する聖火トーチが入場、ゆっくりと競技場を廻って聖火台に到着、開会式の雰囲気は最高潮に盛り上がり、全員見守る中で点火、燃え上がった炎に大きな拍手、選手達はいよいよ時至りの感で体を動かしていた。

競技種目は、バスケット、50m走、100m走、200m走、400m走、400mリレー、立幅飛び、高飛び、ボーリング、1マイル走、ソフトボール投げ、水泳等であり、競技の合間にいろいろな余興が実施された。

この大会は1,000人以上のボランティアで支えられている。競技場には入間基地准曹会、三宿曹友会、練馬曹友会、朝霞曹友会、府中曹友会、東立川曹友会の幟がはためき、自衛隊からは延べ約600人が支援しているとのことであった。空自からは入間基地、府中基地、市ヶ谷基地から多くの隊員と家族が支援に駆けつけていた。

モンゴメリー大会委員長、バーカー第374空輸航空団先任下士官、阿部第374広報部渉外主任は5月9日のJAAGA講演、懇親会に出席していたこともあり、JAAGAの諸々の活動を高く評価しており、今後とも相互連絡を緊密にしていこうと話していた。堅い握手を交わして会場を後にした。

(榎常務理事記)



JAAGA receives appreciation letter

'07嘉手納スペシャル・オリンピックス



Opening, Kadena Special Olympics

6月24日、梅雨明けの宣言がされた沖縄で、晴天の下、第8回嘉手納スペシャルオリンピックが開催された。開会式は10時前からの選手達や支援するボランティアの方々の入場行進から始まった。肌をさすような強い日差しの下、元気に選手団は行進をしていた。例年と違い2方向からの入場であったので入場に掛かる時間が短くなったことは選手団にとっても良かったと感じた。

ゲストとして沖縄県副知事、沖縄全権大使、在沖海兵隊司令官、第83航空隊司令や近隣の市長や町長とスペシャルオリンピックスジャパンの理事長の参加があった。特別ゲストとしてセイン・カミュ氏が

おられた。第18航空団司令ウィリアム准将の挨拶にもあったが、8年前に嘉手納基地と沖縄の皆様との親交を深めるために開始されたプログラムは、今、大きな花を咲かせている。沖縄本島の各地から障害を持った人たちが集合し、運動や美術作品展示を通じて障害者の方たちが交流を深める1日が持てることに大きな意義があると思う。晴天の下に開始されたが、沖縄の天気は気まぐれで、途中激しいスコールが競技を見舞い、一時競技は中断された。その後天気は戻り、競技は最後まで実施された。また、来年も多く障害者アスリート達が集まって楽しい1日を過ごされることを祈る。

(石津沖縄支部長記)



Mr. Ishizu with 18Wg/CC and 83Wg/CC (JASDF)

SPORTEX'07 A開催

— 6月1日、日米82名が参加し友好の絆を深める。

トーマス N. ハセベ氏に、協会から感謝状を贈呈—

当協会から竹河内会長以下正会員及び賛助会員の計47名、米空軍からジェイムズ第5空軍副司令官、グッドウィン第374輸送航空団司令(横田基地司令)以下35名、日米双方合わせて82名が参加した。昨年が続いて春のSPORTEXでは最多の参加者数となり、年々盛況になってきた。

早朝5時半頃から参加者が集まり始め、ドライビング・レンジでの練習、クラブ・ハウスでの朝食を経て、6時半から練習グリーン上で開会式が行われた。ユーモア溢れた司会進行で開会式は和やかな雰

囲気に包まれ、竹河内会長とジェイムズ副司令官から「今日を最高の一日にしましょう。また、お互い良き知り合いになりましょう。」旨の挨拶があり、SPORTEX'07 Aは開始となった。

前夜来の雷雨もすっかり上がり、涼しい風の吹く絶好のコンディションの中、日米混合の各組は各々のスタート・ホールに移動し、7時のホーン吹鳴を合図に一斉にスタートしていった。参加者は、スコアを気にしつつも、友好親善に徹してプレーを楽しんでいた。



SPORTEX'07A

プレー後の昼食・歓談に続き、表彰式が実施された。式に先立ち米第5空軍副司令官特別補佐官、トーマス N. ハセベ氏に日米エア・フォース友好協会から感謝状が贈られた。ハセベ氏は航空自衛隊幹部学校での勤務、これに続く横田基地での勤務、更には特別補佐官として勤務の間、航空自衛隊と米空軍との相互交流に多大な貢献をされた。特に日米下士官交換プログラム支援、日光研修、SPORTEX等のJAAGAの活動を積極的に推進され、日米エア・フォースの友好親善と相互理解の増進に著しく貢献されたことに感謝を表し、今回の授賞となった。輪島塗花瓶の記念品と共に感謝状が竹河内会長から授与された。受賞のハセベ氏は「JAAGAの各種の活動を支援できたことを嬉しく思います。この度、帰国しますが、日米友好が今後益々進むよう祈念します。有難うございました。」と挨拶された。

続いて表彰式では、優勝者及びベストグロス賞リチャード・ピーターソンさん（米軍）、準優勝者ティム・ファーニイさん（米軍）、第3位山口生夫さん（個人賛助会員）、ブービー、ニアピン4名、ドラゴン2名に賞品が贈られた。その他、5位毎の飛び賞とラッキー7賞、法人会員ニライカナイ沖繩（株）様から頂いた参加賞とがあり、多くの賞品授与に大きな歓声が沸き上がっていた。更に、多摩ヒルズ側の積極的な支援・協力と、当日の運営を支えた日米のボランティアの方々に対し、会長から感謝の意が表せられた。

最後に、会長及び副司令官が「今日は最高の一日でした。次回（来年3月20日の予定）のSPORTEXでまた会いましょう。」と挨拶し、多大の成果を上げSPORTEX'07Aは閉会した。

（原田常務理事記）



First flight



Appreciation letter to Mr.Hasebe

… 新入会員紹介 …

1 正会員

氏名	住所	氏名	住所
川上 潔	入間市	長尾 齊	千葉市
吉川 勝三	狭山市	近藤 義廣	入間市
高杉 直明	柏市	吉田 正	港区

2 個人賛助会員

氏名	住所	氏名	住所
マイケル・スタンレー	千葉県いすみ市	須永 有輝子	世田谷区
石坂 公之助	練馬区	須永 喬	世田谷区

会 員 募 集

今期は関係各位のご努力で正会員6氏、個人賛助会員4氏、の計10氏の入会を得ることができました。今年度の会勢拡張目標を正会員300名、個人賛助会員50名、法人賛助会員50社と定め精力的に活動してまいります。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員の入会につきましては、次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接 会員担当の係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員 : 航空自衛隊のOB

個人賛助会員 : 航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

【郵便】〒105-0004 東京都港区新橋5-25-1-3

日米エアフォース友好協会 会員担当 行

【電話：メール】 宇都宮 靖：横浜ゴム㈱ 03-5400-4722 y.utsunomiya@mta.yrc.co.jp

新井 洋一：新東亜交易㈱ 03-3286-0339 yo-arai@sda.shintoa.co.jp

鬼塚 恒久：三井生命保険㈱ 03-3213-0270 onitsune@w5.dion.ne.jp

正岡富士夫：三菱重工業㈱ 03-6716-4319 fujio_masaoka@mhi.co.jp

編 集 後 記

暑中お見舞い申し上げます。今回も「JAAGAだより」をお届けできますこと、感謝申し上げます。さて、「JAAGAだより」は、JAAGAのホーム・ページが充実してきたこと、経費を節減すること等から、今号から年2回の発行となりました。回数が減ったこともあり、各号の内容を充実できるよう努力して参りたいと思います。とりあえず今号は表紙をカラーにしてみました(年1回の予定です。)。また、記事の原稿を募集していますので、次号以降、お寄せ頂いた皆様の投稿を掲載していきたいと考えています。今後ともご協力、ご支援の程、宜しく願いいたします。(編集子)